

【田原市博物館 テーマ展】 魚介・果物・野菜の美術

令和6年7月27日(土)～9月29日(日)

田原市博物館 特別展示室

新鮮でみずみずしい野菜や果物、海産物は古くからたくさん描かれてきました。それは子孫繁栄のような吉祥、泥にまみれつつも清らかな姿であることから、高潔なイメージがありました。

本展では、身近な食材が描かれた作品を紹介します。

○=重要美術品 □=田原市指定文化財 ☆=初公開
記載のないものは全て当館所蔵

指定	作者	作品名	制作年	材質	員数	備考
魚 介						
○	わたなべかざん 渡辺崋山	いぎよず 異魚図	天保11(1840)年	紙本淡彩	掛幅	個人蔵
	わたなべしょうか 渡辺小華	ふぐず 河豚図	明治時代	紙本墨画	掛幅	
	つばきちんざん 椿 椿山	こうざんぎょらくず 江山漁楽図	天保10(1839)年	紙本淡彩	掛幅	
	さくらませいがい 桜間青崖	かんこうどくちゆうず 寒江独釣図	弘化2(1845)年	紙本淡彩	掛幅	
	やまもときんこく 山本梨谷	ぎょそんずびようぶ 漁村図屏風	江戸時代後期～明治時代	紙本墨画淡彩	屏風	四曲一双
☆	たざきそうん 田崎草雲	りぎよず 鯉魚図	明治23(1890)年	絹本着色	掛幅	
	まつばやしせつ 松林雪貞	ほしうお 干魚	昭和時代	紙本着色	色紙	個人蔵
	しらいえんがん 白井烟崑	しきし い か 色紙 烏賊	昭和時代	紙本着色	色紙	
野 菜						
□	渡辺崋山	へちまはいがず 糸瓜俳画図	江戸時代・天保年間	紙本淡彩	掛幅	
	渡辺崋山	ばいかだいこんずせんめん 梅花大根図扇面	江戸時代後期	紙本淡彩	扇子	
	椿 椿山	みょうがなすしゅうちゆうず 茗荷茄子秋虫図	天保9(1838)年	絹本着色	掛幅	
	椿 椿山	そかのず 蔬果之図	嘉永2(1849)年	絹本着色	掛幅	
	おおくらながつね 大蔵永常	ゆさいろく 油菜録	文政12(1829)年	紙本版画	版本	
	大蔵永常	かどたのさかえ 門田之栄(写本)	天保6(1835)年	紙本版画	版本	
果 物						
	渡辺崋山	きだいきんぼず 亀台金母図	文化8(1811)年	紙本淡彩	掛幅	
	渡辺小華	しゅうそうせいきょうのず 秋窓清供之図	明治8(1875)年	絹本着色	掛幅	
	わたなべじよざん 渡辺如山	りゅうとうひやくちゆうず 柳荳百虫図	江戸時代後期	紙本淡彩	掛幅	
☆	田崎草雲	げっかぶどうず 月下葡萄図	明治時代	絹本墨画	掛幅	
	のぐちゆうこく 野口幽谷	かいかくはんとう 海鶴蟠桃	明治22(1889)年	紙本着色	掛幅	
	野口幽谷	わらくどうだんしゅうしゅきちゆう 和楽堂談笑珠璣帖	明治時代	紙本墨画淡彩	画帖	白井烟崑旧蔵品
	野口幽谷	かきさつ 花卉冊	明治18(1885)年	絹本着色	画帖	
	松林雪貞	さくらんぼ	昭和時代	紙本着色	色紙	個人蔵
	松林雪貞	いちご 苺	昭和時代	紙本着色	色紙	個人蔵
	松林雪貞	なし かぼす しんしょうが 梨 かぼす 新生姜	昭和時代	絹本着色	色紙	個人蔵

<作者紹介>

渡辺崋山 寛政5(1793)年~天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を習います。崋山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

椿 椿山 享和元(1801)年~嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺崋山の弟子になります。蚕社の獄で崋山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。崋山没後は、崋山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

渡辺小華 天保6(1835)年~明治20(1887)年

渡辺崋山の次男です。小華が7歳の時に、父である崋山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を習います。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

渡辺如山 文化13(1816)年~天保8(1837)年

渡辺崋山の弟です。学問や書画に優れ、将来を期待されましたが、わずか21歳で亡くなりました。若くして亡くなったため、作品は多く残っていません。14歳から椿椿山に師事し、天保7(1836)年刊行の『江戸現在広益諸家人名録』に掲載され、名を馳せていたことが窺われます。

山本栞谷 文化8(1811)年~明治6(1873)年

石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸斎に絵を習いました。江戸へ出府後、渡辺崋山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

大蔵永常 明和5(1768)年~万延元(1861)年

豊後国日田(現在の大分県日田市)の製蠟職人の家に生まれました。大坂や江戸など全国各地を巡り、諸国の農政について研究しました。やがて田原藩の家老渡辺崋山の知ることとなり、天保5(1834)年、崋山の推薦で田原藩産物方に就任しました。

桜間青厓 天明6(1786)年~嘉永4(1851)年

岡崎藩主本田家に仕えた岡崎藩士です。渡辺崋山・椿椿山と交友していました。青厓が描く山水画は「山水は我青厓に及ばず」と崋山に言われるほど得意でした。蚕社の獄で崋山が捕らえられた際に、崋山の釈放に尽力した一人です。

野口幽谷 文政10(1827)年~明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を習いました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23年、橋本雅邦らとともに帝室技芸員に任命されました。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。

松林雪貞 明治13(1880)年~昭和45(1970)年

福島県白河の出身で、旧白河藩家老の家に生まれました。本名は松林孝子。明治29(1896)年、野口幽谷に師事し、翌年日本美術協会で二等褒状を受けました。明治34年、同門の伊藤篤(後に松林桂月)と結婚しました。その後は日本美術協会展に連続で入賞しますが、次第に展覧会への出品は減りました。写生に基づく花鳥画を多く描きました。

白井烟崑 明治27(1894)年~昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、帝展や新文展に出品し、戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺崋山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。